

東洋アルミグループ サステナビリティレポート

Sustainability Report 2026





未来を創る、私が創る、 みんなで創る

Mission

社会に新たな常識を

日々の暮らしから宇宙まで、素材×技術×サービスで創り出す

Vision

自分にも世界にも誇れる会社

オンリーワン

オープンイノベーションを軸に、
製品・サービスで顧客の期待を超える会社

集団の天才

一人ひとりがイキイキと強みを発揮し、
チームで価値を創造する会社

Value

楽しさ創造力

自分もメンバーもイキイキと！ 誰でもチャレンジできる

誠実さ・真摯さ

何事もひたむきに 新たなToyalブランドを築き上げる

顧客とともに

一人ひとりが、顧客にとって何が最善かを考え、提案する

Contents

01	MVV 会社概要 グローバルネットワーク 編集方針・コンセプト	■ 東洋アルミグループのサステナビリティ	■ サステナビリティ経営を支える基盤
13	サステナビリティマネジメント 新マテリアリティ	31	ガバナンス
15	新マテリアリティに対する役員メッセージ	33	人権デュー・デリジェンス
17	推進体制 国連グローバル・コンパクトへの署名 Topics / エコバディス (EcoVadis) 評価	34	サステナビリティへの想いと取り組み 役員メッセージ サステナビリティWG*活動紹介 *WG:ワーキンググループ
18	5つのマテリアリティ CSR活動アクションプラン		
05	TOP COMMITMENT	19	■ マテリアリティ1 未来を創るイノベーション
		21	■ マテリアリティ2 環境保全
		23	■ マテリアリティ3 多様な人財の活躍
		25	■ マテリアリティ4 品質と安全
		27	■ マテリアリティ5 ステークホルダーとの協働
09	環境マネジメント	29	社会貢献活動
11	社内ダイアログ		

会社概要

社 名：東洋アルミニウム株式会社
代 表 者：代表取締役社長 田中 勝元
本社所在地：〒541-0056
大阪府大阪市中央区久太郎町
三丁目6番8号 JRE御堂筋ダイワビル
設 立：1999年5月12日
(旧東洋アルミニウム株式会社は1931年4月7日設立)
資 本 金：80億円
従 業 員：連結 2,475名
単体 1,418名
(2026年3月末現在)
株 主：日本軽金属ホールディングス株式会社 100%

グローバルネットワーク

〈東洋アルミニウム株式会社 事業所〉

八尾製造所／蒲原製造所／千葉製造所／群馬製造所／茅ヶ崎製造所
新庄製造所／日野製造所／大阪オフィス／東京オフィス

〈関係会社〉

● 国内

東洋アルミエコープロダクツ株式会社／東海東洋アルミ販売株式会社
アルファミック株式会社／エー・エル・ピー株式会社／東洋アルミ興産株式会社

● 海外

アメリカ

トーヤル アメリカ社

フランス

トーヤル ヨーロッパ社

韓国

三亜アルミニウム社

中国

肇慶東洋鋁業有限公司
湖南寧鄉吉唯信金屬粉体有限公司
東洋鋁愛科商貿(蘇州)有限公司
東洋鋁愛科國際貿易(上海)有限公司
拓洋鋁(上海)管理有限公司
上海東頂順鋁製品有限公司

インド

スバム トーヤル社
トーヤル MMP インディア社

タイ

トーヤル(タイランド)社

編集方針・コンセプト

「未来を創る、私が創る、みんなで創る」——このスローガンのもと、東洋アルミグループではコンセプト「みらいのためにできること」を一つひとつ実践し、社会や環境に配慮したさまざまな取り組みを進めています。本レポートでは、2026年4月の社長交代を受け、新社長の考え方や今後の方向性をお伝えします。また、当社の事業活動が環境・社会に与える影響と、環境・社会の変化が当社に与える影響の双方を踏まえたダブルマテリアリティの考え方に基づき、新たに設定したマテリアリティを掲載しています。これらの重要課題に基づき、創立100周年を迎える2031年に向けて、財務・非財務の両面から持続的な成長の実現を目指します。本レポートを通じて、当社の現在地と今後の方向性を明確に示すとともに、ステークホルダーの皆さまとの対話を深めることができれば幸いです。

■参考ガイドライン

・SDG Compass ・GRIスタンダード ・ISO26000 ・環境省 環境報告ガイドライン2018年版

■対象期間

2025年4月～2026年3月の取り組みを中心に、2026年度の方針や活動についても一部報告しています。

■対象範囲

東洋アルミニウム株式会社および子会社

■発行時期

2026年7月(次回2027年7月予定、前回2025年9月)

■表紙デザインについて

アルミ箔のロールをモチーフに、従業員の顔写真を映し出すことで、東洋アルミグループの多様な人財と企業らしさを表現しました。



東洋アルミグループ Sustainability Report
◀ 東洋アルミグループ Sustainability Report【データ編】
https://www.toyal.co.jp/eco/report_dl.html

※人は財産と考え、「人財」と表現しています。
※従業員の豊かな生活を重視し、「ライフワークバランス」という言葉を使っています。

※所属組織およびインタビュー内容は、取材当時のものです。

「みらいのためにできること」

Business introduction



事業紹介

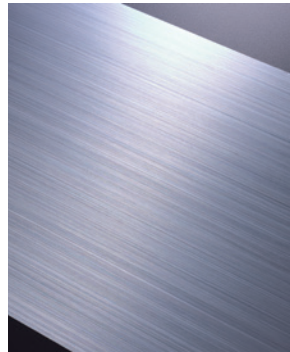
地殻の中に一番多く含まれる金属元素アルミニウム。

金属として得られるようになったのは150年ほど前という比較的新しい金属です。アルミニウムの軽くて再利用でき、土に還るというエコロジカルな特性を進化させる私たちの複合技術、応用技術、新技術。そのポテンシャルは、世界中のさまざまな分野でエコと進化を両立させ、今までできなかった技術を実現する、そんな可能性でいっぱいです。

箔事業

豊かに、先進的に。
アルミ箔の可能性は尽きない。

アルミ箔は長年、暮らしや産業をはじめ多様な分野で社会に貢献してきました。その中で私たちは、アルミニウムの特性を深く理解し、先進の圧延技術によって、常にお客さまのご要望に応え、社会の課題を解決する価値あるアルミ箔を提案しています。今後も、アルミ箔の可能性をさらに引き出し、技術の進化、社会の進歩を支えていきます。



ヘアーライン加工を施したオリジナル箔



画期的な撥水性包装材
トーヤルロータス®

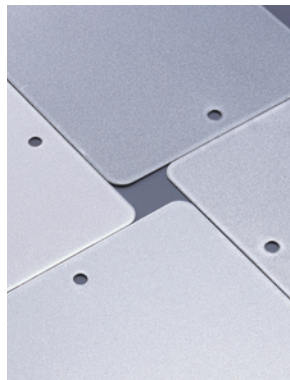
パウダー・ペースト事業

暮らしも、未来も。
アルミの力を新発見し続ける。

これからの技術には、社会を豊かに進化させることと、地球環境を守ること、その両立が求められています。私たちのアルミパウダーやペーストは、高い付加価値を提供し、幅広い分野で豊かな暮らしや社会の発展に貢献しています。これからも、アルミニウムの持つ力を研究し、人々の暮らしや産業、そして地球環境に貢献する素材や製品を開発していきます。



高放熱絶縁窒化アルミフィラー TFZシリーズ



環境に配慮した粉体塗料用顔料

日用品事業

いつも暮らしのそばに

サンホイル®やレンジパネル®, 汚れ防止フィルターなど、暮らしをもっと快適にする家庭用商品および、アルミ箔や紙をさまざまな製法で容器に加工し、プロの現場を支える業務用商品を提供しています。私たちは、使う人を想像することから仕事を始め、多様なニーズに応えるものづくりを続けています。生活に寄り添う提案を通じて、支持されるブランドであり続けます。



曲げわっぱ風 紙容器



サンホイル®

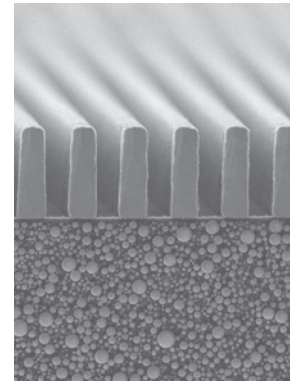
新事業

新たなビジネスの創出に向けて

耐食性に優れた塗料、太陽電池パネル、超微細&高周波回路の形成に最適な基板工法「ALU-SAP™」用アルミ箔、半導体の未来を創る革新材料SiGeウェハなど、アルミメーカーとして培った長年の技術を活かし、またはその枠を超えて、将来の東洋アルミグループを支えるビジネスの創出に向けて日々今までにない製品の開発に取り組んでいます。



通常の1/2の軽さ ガラス仕様軽量太陽光パネル
Hane® Module



ALU-SAP™工法で作製された
2μm幅の超細配線

東海東洋アルミ販売株式会社

いつも新しい出会いを創るため、
「繋ぐ、繋がる、繋げる」活動を推進

東洋アルミグループ直系の商社であり、今後も東洋アルミグループ製品を主力とした新しいビジネス活動を通じて、クリーンエネルギーの促進、リサイクル促進、環境対応など、社会貢献へ繋げられる活動をさらに推進していきます。また、お客さまや仕入れメーカーなど、ビジネスパートナーとの繋がりを強化し、皆さまと共に企業価値の向上に努めていきます。



Top Commitment



代表取締役社長

田中 務元

「責任」「信頼」「透明性」「家族」「健康」を大切にし
ステークホルダーの皆さまとともに、
持続可能な未来へ歩んでいきます。

COMMITMENTのポイント

- 1 東洋アルミグループは財務・非財務の両面で持続的な成長を目指します
- 2 「責任」「信頼」「透明性」「家族」「健康」の5つの価値観でサステナビリティ経営を推進します
- 3 新マテリアリティに基づき、取組みを進めています
- 4 創立100周年を迎える2031年に向けた「2031年プラン」の達成に向けて取り組んでいます
- 5 成長の成果がステークホルダーの皆さまへの貢献として広がっていく循環を育てます

東洋アルミグループは、「未来を創る、私が創る、みんなで創る」のスローガンのもと、全従業員が一丸となって持続的な成長を目指しています。成長は財務面だけでなく、社会課題の解消に貢献し、社会から信頼される企業としての非財務面での企業価値向上も含まれます。サステナビリティ経営を推進することは、当社の企業価値を高めるとともに、全てのステークホルダーの持続可能な未来を創るために欠かせない取組みです。

私は「責任」「信頼」「透明性」「家族」「健康」という5つの価値観を大切にしています。社会に対して責任を持ち、信頼される会社になるためには、透明性をガバナンスの基本にして、誠実な情報開示や丁寧な説明責任を果たしていく必要があります。

そして、会社が家族のようにフランクに言いたいことを言い合え、みんなで助け合っていく企業文化・風土を醸成することで、全ての従業員の幸せを追求していきます。健康は幸せの大前提ですから、健康経営を一層推進していきます。

社会課題の解消に貢献するため、マテリアリティへの対応を着実に進めています。気候変動や人権尊重、サプライチェーンなどに関わる課題については、サステナビリティ委員会のもとで継続的に議論を深め、前進させています。これらを支える基盤として、私が経営の中心に置いているのが透明性です。

めまぐるしく動く国際情勢の中で、私たちが直面する事業環境も社会課題も大きく変化しています。外部環境の変化に対して、これまでの考え方を無理に変えようとするのではなく、組織が自らの力で自律的に変わっていくことを重視しています。さまざまな課題にその都度しなやかに向き合い、変化を受け入れながら、財務面では創立100周年を迎える2031年に向けた目標を達成していくとともに、非財務面では新マテリアリティに基づき、KPIと目標の策定を進めていきます。

当社は、従業員一人ひとりの成長が会社の成長につながり、その成果がステークホルダーの皆さまへの貢献として広がっていく——その循環を、これからも育てていきます。



全てのステークホルダーの幸せにつながる「2031年プラン」

当社は、創立100周年を迎える2031年に向けた「2031年プラン」を策定しました。財務目標は売上高1,600億円、営業利益130億円で、現状のほぼ倍の業績を5年間で伸ばすことになります。

当社には食品や医薬品用途から日用品、自動車、ロケット用途まで幅広い製品群があり、多くの分野で高いシェアを有しています。こうした既存ビジネスに加え、箔事業ではアルミ箔の表面処理技術を活かした製品開発と新規拡販、パウダー・ペースト事業ではAI向けのデータセンターなどでの放熱用途で需要が高まる窒化アルミニウム、日用品事業では米国などで需要が高まっている「フィルたん[®]」(p.27参照)の海外展開など、3事業とも大きな成長が期待できる商材や

ビジネスチャンスがあります。成長分野に積極的に投資をして成果につなげていくとともに、これまでの事業で培った知見を活かしたM&Aを推進するなど、目標達成のための施策をしっかりと計画しています。

目標は財務面だけではなく、事業の成長とともに、サステナビリティを土台とした非財務面での企業価値の向上を進めていきます。

会社が成長すれば、従業員はもちろん、株主やお取引先、地域社会などのステークホルダーの皆さまの幸せにもつながります。単に財務目標を達成するだけでなく、全てのステークホルダーの幸せにつながる好循環を生み出すことが、「2031年プラン」の目標です。

社会課題を経営課題として捉え、サステナビリティ経営を推進

非財務価値の土台となるのは、サステナビリティの取り組みです。当社は、CSR基本方針やCSR行動憲章の策定など、以前から社会的責任を意識した取り組みを進めてきました。その流れを踏まえ、2016年にはSDGs達成への貢献を目指したサステナビリティ活動を開始しました。以後、マテリアリティや「東洋アルミグループ・サステナビリティ・ビジョン」の策定、国連グローバル・コンパクトへの署名、などを経て、2022年にサステナビリティ委員会を立ち上げ、社会課題を自社の経営

課題として捉え、サステナビリティ経営を進めています。

サステナビリティ委員会は、社長である私が委員長を務め、当社にとって重要なサステナビリティ課題である人権尊重の取り組みや温室効果ガス排出量の削減計画などについて、継続的に議論を重ねています。また、部門横断の若手従業員を中心としたサステナビリティ推進ワーキンググループを結成し、関連会社も含めた全社一体となった体制でサステナビリティ活動を推進しています。

マテリアリティを見直し、新たな価値創造へ

サステナビリティ経営の指針となるマテリアリティは、2017年の設定から10年近く経ち世界情勢や当社を取り巻く環境も変化していることから、見直しを行いました。新マテリアリティは「イノベーションで未来創造」「自然および地域との共生の実現」「事業基盤の強化」を大項目にしています。

「イノベーションで未来創造」は、当社のスローガン「未来を創る、私が創る、みんなで創る」を体現するものです。当社には、環境負荷の低減や、健康で快適な暮らしに貢献する革新技術や画期的な製品を生み出す力があります。その力をさらに高め、新技術や新製品の開発、新市場の開拓に取り組むことで、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

「自然および地域との共生の実現」は、これまでの事業活動でも大切にしてきた価値観です。温室効果ガスや廃棄物の削減、リユース・リサイクルの推進は、企業価値を高め、業績向上にもつながります。私は以前、事業本部長に就任した際に「製造所からはガスも含めて排出物を出さないようにしましょう」

という方針を出しました。排出物をできる限り削減する活動によって、エネルギーの削減だけでなく、製品の歩留まりも良くなるなどの効果がありました。

温室効果ガスの削減については、日本政府が掲げるカーボンニュートラルに向けた成長戦略の流れを踏まえ、当社としてもサプライチェーン全体で排出量削減に向けた取り組みを段階的に進める必要があると考えています。当社はアルミ地金を主要原料としていることから、Scope3の削減は難しい課題ですが、サプライヤーとの対話やリサイクル材の活用拡大など、今できる現実的な一歩から着実に取り組んでいきます。

地域社会への貢献では、オフィスや製造所周辺の清掃活動に従業員が参加するなど、従業員が自主的に取り組むとともに、会社として地域のプロバスケットボールチームへの支援などの活動を行っています。今後も、従業員からの意見やアイデアを募って、会社として社会貢献活動をサポートしていきたいと考えています。

価値創造を推進する人と組織づくり

新マテリアリティの「事業基盤の強化」における「価値創造を推進する人と組織づくり」は、当社の成長戦略の基本となるものです。AIが急速に進展する中で、これからの人財には、ITに関する基礎的な理解に加え、変化に柔軟に対応できる力が一層求められます。そのため、教育や育成のあり方も見直しながら、時代に即した人財育成を進めていく必要があると考えています。業務の進め方や仕事への向き合い方は、一朝一夕に変えられるものではありませんが、自然と変化が根付く環境や風土をつくり、組織が自律的に変わっていくことを重視しています。

人財の多様性の面では女性従業員の比率が低いことを課題の一つとして認識しています。そのため、製造現場を中心としたライン職群への女性採用を積極的に進めていきます。現在でも、ライン職群の女性従業員は各現場で非常に活躍しており、なくてはならない存在です。今後も、女性を含む多様な人財がそれぞれの職場で力を発揮できる環境づくりを進めていきます。あわせて、国籍や性別、価値観の違いを尊重し、多様な人財が活躍できる組織を目指していきます。

そうした多様な人財に存分に活躍していただくために、当社では健康経営を推進しています。2026年3月には経済産業省が選定する「健康経営優良法人認定制度」において、「健康経営優良法人2026(大規模法人部門)」に認定されました。

健康維持には従業員一人ひとりの自己管理や自己節制が重要であるとともに、会社としても、心身の健康を支える環境づくりに取り組むことが大切だと考えています。ご自身の健康が、ご家族や会社の仲間にとってどれほど大切なものであるか

を考えることが、健康を自分ごととして捉える第一歩です。

また、健康のために培われる自己コントロールは、仕事にも活かせるものです。

当社は、心身共に健康で、安心・安全に働ける職場環境を整え、全ての従業員が元気に、笑顔で活躍する企業であり続けられるよう、健康経営を推進していきます。

また、新マテリアリティでは、サプライチェーンにおける人権尊重など、人権の観点を新たに加えています。人権に関わる課題は非常に幅広く、容易に対応できるものではありませんが、私は、人権を尊重することを企業として大切にすべき基本姿勢だと考えています。

その考えのもと、今後も誠実に対応していきます。

透明性を企業文化として根付かせ、ステークホルダーから信頼される会社へ

サステナビリティ経営を推進する上で、リスクマネジメントやコンプライアンス推進などのガバナンス強化は極めて重要です。

地政学的リスクや自然災害リスクなど、想定外の事態が発生した際にどう対応するかは、企業存続の上で非常に重要な課題です。当社は、これまでの多くの経験を通じて、想定されるリスクはもちろん、想定外のリスクにも対応できる力を培ってきました。今後も油断することなく、着実にリスク対応していきます。

安全や品質に関わるリスクについては、「安全と品質は会社の命」をスローガンにグループ全体で取り組んでいます。

安全については、死亡事故、休業災害、火災事故、爆発事故の4つの撲滅に重点的に取り組み、重篤災害の未然防止を推進していきます。

品質については、業績に影響するような品質事故は発生していませんが、なお課題があると認識しています。重要なのは、事業

部門がお客さまとの品質の取決めをより厳密に行うことで、お客さまとしっかりコミュニケーションを取って、双方が納得した品質基準を定めることが最も重要だと考えています。

「会社の命」というのは非常に重い言葉です。安全パトロールや品質の事業所対話会では言葉の重さの意味について、従業員にあらためて問いかけていきたいと思っています。

私は、ガバナンス強化は透明性に尽きると考えています。透明性のない仕事は許さないという姿勢で経営に臨みます。経営の考え方や非財務情報についても、サプライチェーンを含めて、できる限り透明性をもって開示していきます。

今年度は、財務面での予算の達成とともに、非財務面では透明性を文化として根付かせる第一歩となる一年にしたいと考えています。財務面でも非財務面でもステークホルダーの皆さまから信頼される会社を目指し、持続的に成長できる企業基盤を築いていきます。

独自の分離技術 「ダブルサイクル™」で挑む、 資源循環と脱炭素の両立

東洋アルミグループでは、環境負荷低減に貢献する技術・製品を開発し、持続可能な社会の実現に貢献することを方針の一つとして掲げています。環境マネジメントの対象とすべき項目は多岐にわたりますが、中でもリサイクル技術の推進による循環型社会の実現に対する企業への期待は一層高まっています。食品や医薬品に用いられるアルミ箔包装材は、複合素材であるためリサイクルが難しく、使用後の材料は焼却処理に依存しているのが現状です。当社はこの課題に対し、独自の分離技術「ダブルサイクル™」の開発を通じて、アルミ箔包装材に含まれるアルミのリサイクルを進め、資源循環と脱炭素の両立に挑戦しています。

「循環型社会」を見据えた開発の原点

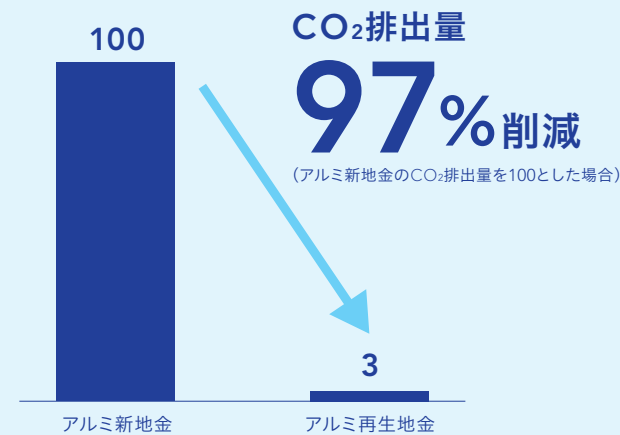
リサイクルは「コストがかかるビジネス」とされ、容易に収益化できない分野でした。私たちが開発に着手したのは2021年。世間ではレジ袋のバイオマス化が注目されていましたが、資源に乏しい日本に必要なのは「資源を生かす循環型社会」だと考えました。アルミをリサイクルする技術の確立こそが、環境負荷の低減と財務面の両立につながると考え、開発をスタートしました。

国内のアルミ箔包装材の加工箔の推定廃棄量

10~16万トン/年
(推計)

複合素材の壁を突破し、環境負荷を大幅に削減

食品・医薬品用アルミ箔包装材は多くはプラスチック製容器包装として分別収集されますが、アルミと樹脂が一体化しているため分離が困難で、多くが焼却処理されてきました。そこで生まれたのが、素材をきれいに分離・リサイクルできる独自技術「ダブルサイクル™」です。アルミ再生地金は、アルミ新地金と比べてCO₂排出量がわずか約3%といわれています。資源循環と脱炭素の両面で大きな効果を生み出します。

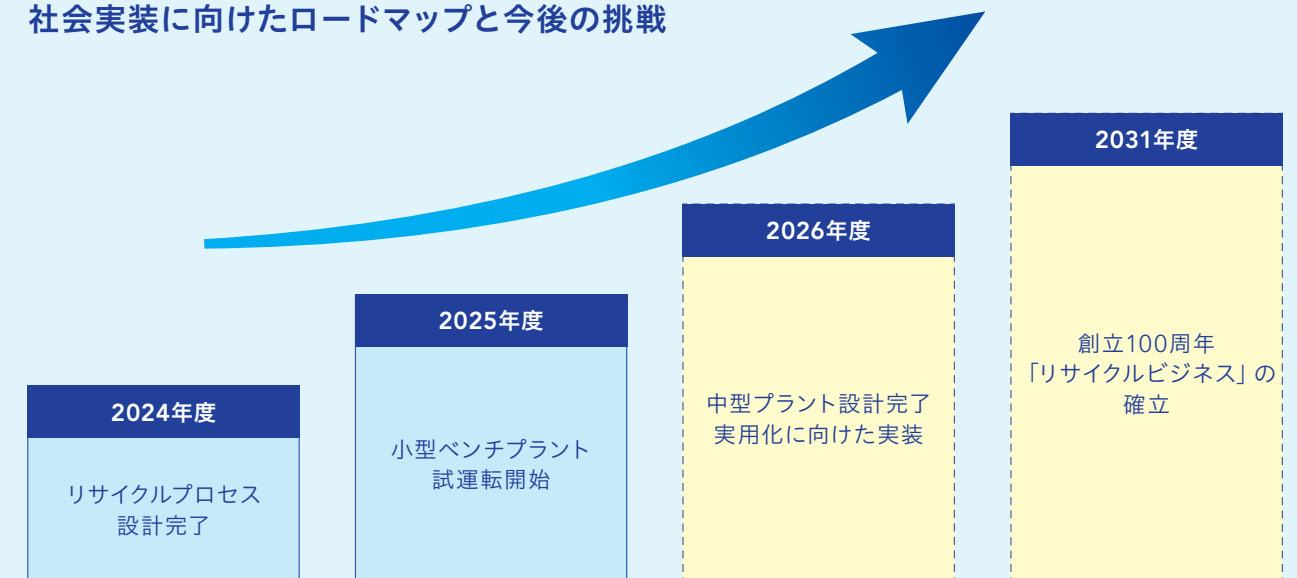


データソース：一般社団法人日本アルミニウム協会
<https://www.aluminum.or.jp/wp-content/themes/dp-colors/img/AboutAluminum.pdf>

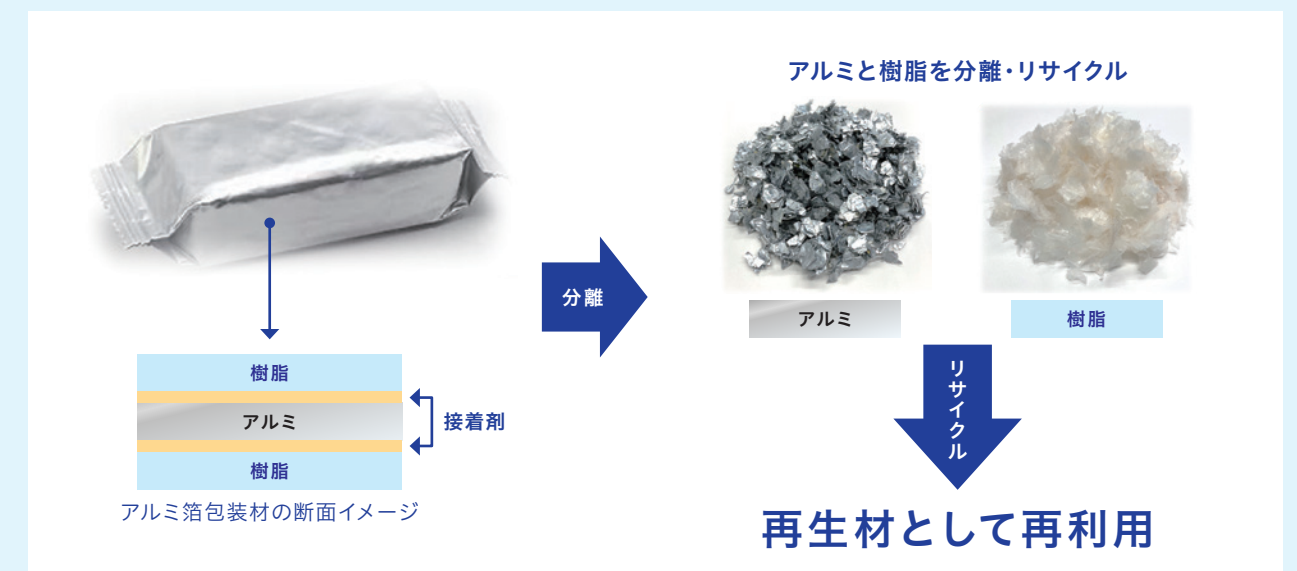
新たなリサイクルの仕組みづくりに向けた挑戦

資源循環と脱炭素の両立に向け、アルミスクラップを収集し、再製品化へつなげるリサイクルの仕組みづくりに取り組んでいます。既存の物流ルートを活用してお客さまからアルミスクラップを収集し、再び製品化して提供する「水平・カスケードリサイクル」の仕組みづくりを、現場で検証を重ねながら進めています。現在は、2024年度下期にリサイクルプロセス設計を完了し、2025年度下期から小型ベンチプラントで試運転を開始しました。2026年度中には中型プラント設計を完了し、実用化に向けた取組みをさらに進めていきます。試運転を通じて安全性を確認するとともに、環境価値の見える化にも取り組んでいます。100周年に向けて、資源循環と脱炭素を両立する事業モデルの確立を目指します。

社会実装に向けたロードマップと今後の挑戦



ダブルサイクル™による分離



次ページP11-12では「リサイクル」をテーマに実施した社内ダイアログを紹介しています。

特集 社内ダイアログ

部門を超え、お客さまと共に アルミ箔、加工箔の リサイクルシステムを構築

東洋アルミニウム(株)では、アルミ箔のリサイクルを推進するために、お客さまの余剰材を回収するとともに、加工箔(アルミとプラスチックなどの複合素材)スクラップからアルミニウムを抽出する技術(ダブルサイクル™)の開発に取り組んでいます。部門を超えた連携でお客さまと取り組むリサイクルの現状と、今後の展開についてダイアログを実施しました。

加工箔のリサイクルを進展させる

佐藤 東洋アルミでは、従来からアルミ箔やアルミパウダーの製造過程で発生するアルミ箔スクラップや粗粒粉のリサイクルを行ってきました。現在はそのリサイクルプロセスを最適化する取組みを進めています。例えば、リチウムイオン電池の外装材に使われる箔厚が厚いアルミ箔スクラップは、アルミ再生地金に再鍛造せずアルミ箔スクラップのまま再利用できることが確認できたので、新たなリサイクル方法を製造所と連携しながら検討を進めています。さらに、リサイクル量を増やすために社内の他部署や他社と連携してさまざまな取組みを進めています。中でも注力しているのがダブルサイクル™の事業化に向けた加工箔スクラップのリサイクルです。

山田・山口 私たち素材箔営業ユニットの主なお客さまは、アルミ箔とフィルムなどをラミネート加工している企業です。当社でも加工箔の事業を行っています。アルミ箔の出荷量は、素材箔としてお客さまに販売している量の方がはるかに多くなります。リサイクルを推進するため、当社が販売したアルミ箔のリサイクルに向けた取組みを進めています。一つは、お客さまが使用せずに残ってしまったアルミ箔を有償で回収し、当社でリサイクルすることです。回収するアルミ箔は、当社が販売したものに限らず、国内外のメーカーを問わず回収する点が、従来の取組みとは違う特徴です。もう一つは、お客さまのところで発生した加工箔スクラップについて、原料チームと連携しながら当社でリサイクルすることをお客さまにご提案し、回収に向けた準備に取り組んでいます。



箔事業本部
素材箔営業ユニット
東日本チーム

山口 晃一郎

東 当社の製造過程で発生したアルミスクラップを製品の原料として再利用するリサイクルスキームは既に構築しています。しかし、それらのリサイクルアルミは、製品として循環利用できていませんでした。そこで、当社の食品や医薬品用のアルミ箔包装材の加工箔スクラップに着目しました。加工箔スクラップは、年数百トンにもなります。これをリサイクルし、さらに製品に展開することを目的としてダブルサイクル™を開発しました。現在は、ダブルサイクル™を社会に広く普及させるためのスケールアップに向けた技術開発と、社内外のステークホルダーと連携したリサイクルプロセスの構築に取り組んでいます。



パウダー・ペースト事業本部
技術開発ユニット
ペースト生産技術チームリーダー
東 直樹

アルミ箔、アルミパウダー・ペーストの トップメーカーとしての使命

東 アルミニウムのリサイクルで思い浮かべられるのは、アルミ缶などのリサイクルだと思います。残念ながら、アルミ缶のリサイクル材は、マグネシウム等が添加されており、アルミ箔やアルミパウダー原料には適しません。現状、当社の原料となるような高純度アルミスクラップは、市中に存在しません。アルミ箔、パウダー・ペーストのリーディングカンパニーとして循環型社会に貢献するには、当社が、責任を持ってリサイクル技術の開発に取り組まなければならないと考えました。

山田 アルミ箔のトップメーカーである東洋アルミが、まず率先してリサイクルに取り組まなければいけないという思いを、リサイクルに取り組む全てのメンバーが持っています。営業としては、お客さまにリサイクルの取組みを広げていくことで、業界全体にリサイクルの取組みを浸透させていきたいと考えています。

山口 ここ数年、サステナビリティへの関心が高まる中で、包装市場においてアルミ箔包装材が嫌われる傾向がありました。それはリサイクルができないと考えられてきたからです。今回のダブルサイクル™の開発でアルミ箔も樹脂も同時にリサイクルできるようになり、それを活用すればお客さまと一緒に社会に貢献することができます。

東 加工箔のリサイクル技術を確立できると、アルミ箔の魅力をさらに向上できると考えました。アルミ箔は、優れたバリアー性を有し、食品や薬品を長期間、衛生的に保存できます。さらに、アルミ再生地金は、電気製錬で製造されるアルミ新地金と比較して3%のCO₂排出量で済むといわれています(日本アルミニウム協会より)。このため、リサイクルアルミ箔の供給体制が整うと、脱炭素社会に貢献できると考えています。さらに、アルミ箔スクラップやアルミパウダースクラップから製造したリサイクルアルミペースト(Eco Shine™)も既に開発済みです。自動車塗料用顔料として、お客さまから引き合いをいただいていて、脱炭素が必要な自動車業界のEcoブランディングに貢献できると考えています。



コーポレート本部
原料チームリーダー
佐藤 拓也

佐藤 東洋アルミはアルミメーカーとして、リサイクルしたアルミをパウダー・ペーストやアルミ箔に加工し、お客さまのもとに支給するという最適なリサイクルプロセスを構築できます。アルミ箔のリサイクルプロセスを構築することはトップメーカーとしての使命だと考えています。

事業化を目指して課題を克服していく

東 ダブルサイクル™の今後の課題は、プラントのスケールアップです。2026年度中に中型プラントの設計を完了させ、将来ビジョンを明確に説明できるように技術的課題をクリアし、工場化スケールへの目途をつけていきます。

佐藤 加工箔以外のリサイクルについては、当社はもちろん、営業がお客さまから回収したものについても最適なリサイクルのスキームができています。加工箔スクラップのリサイクルについては、ダブルサイクル™の開発をただ待つのではなく、現在構築しているスキームを活用し、リサイクルできるものはどんどんリサイクルしていきます。そして、当社が回収したリサイクルアルミを用いて、リサイクル率100%のアルミ箔を生産したいと考えています。それを実現するには、技術陣や製造所、営業などとの一層の連携が必要です。みんなの力を合わせて完全循環型のリサイクルを目指していきます。

山田 営業としての課題は、まず回収量を増やしていくことです。お客さまもサステナビリティへの意識は高まっていますし、当社の提案も「良い取組みですね」と言っていただけることも多い一方で、新しい取組みであることから課題も多く、具体的に検討いただくには至っていないというお客さまも少なくありません。どう提案すればお客さまがより具体的に検討いただけるかを考えながら、提案と課題解決を進め、回収量の増



箔事業本部
素材箔営業ユニット
西日本チーム
山田 稔弘

加に取り組めます。また、それと並行して、回収したリサイクル材の活用として、リサイクル率100%のアルミ箔についても検討していきます。

山口 お客さまにより前向きになっていただくためには、アルミ箔のリサイクルを象徴するようなキャッチフレーズを作り、トップメーカーとしてのブランディング化も必要だと思います。リサイクル率100%のアルミ箔ができあがったら、それを活用していただけるお客さまを開拓していくことは、私たち営業の頑張りどころです。関係者と連携しながら、アルミ箔のリサイクルを推進していきます。

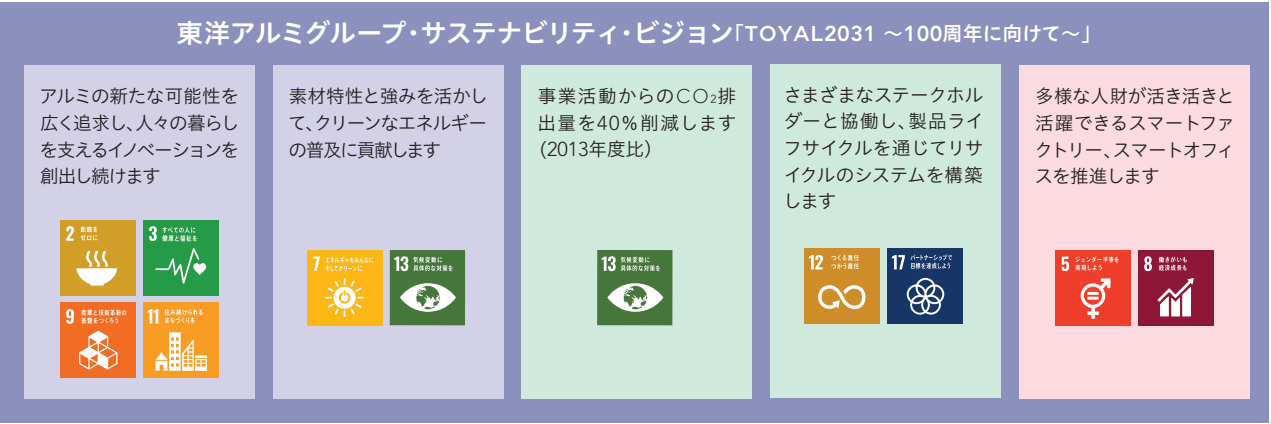
東 アルミ箔のリサイクルを持続していくには、事業として成り立つことが必要です。ダブルサイクル™の開発は、起案の時点からリサイクルによって新しい事業部を作るという意気込みで取り組んできました。OKR活動を通してパウダー・ペースト事業本部内はもとより、原料チームや箔事業本部、先端技術本部など部門の枠を超えた協力で、技術の確立やビジネス化への取組みに挑戦してきました。

佐藤 このリサイクルをビジネスにしたい、しなければいけないという志は、私たちも同じです。環境に貢献し、かつ将来の新たな柱となる事業に取り組んでいることをモチベーションに、リサイクルを推進していきます。

サステナビリティマネジメント

「未来を創る、私が創る、みんなで創る」を具体化し持続可能な社会の実現に貢献すること、それが東洋アルミグループのサステナビリティ経営です。

2031年に創立100周年を迎えますが、その後も150周年、200周年と持続できるように、私たちができることを真剣に考え、皆さまとともに歩んでいける企業でありたいと願っています。



new Materiality

新マテリアリティ

当社では、2017年4月に策定した現行のマテリアリティについて、策定から一定の時間が経過する中で、事業環境や社会情勢が大きく変化してきたことを踏まえ、見直しを進めました。近年は、気候変動への対応や資源循環の推進、人権・労働環境への配慮、地域社会との共生など、企業に求められる役割が一層広がっており、サステナビリティに関する要請も年々高まっています。こうした状況の中で、従来の枠組みをそのまま維持するのではなく、現在の経営課題や社会からの期待に即した内容へと再整理することが必要であると判断し、マテリアリティの再設定を行いました。

再設定にあたっては、当社の事業活動が環境・社会に与える影響と、環境・社会の変化が当社に与える影響の双方を踏まえたダブルマテリアリティの考え方を用いて検討を進めました。あわせて、各部門のリーダーへのヒアリングを通じて、現場で認識されている課題や今後重要となる論点を抽出し、関係部門と連携しながら全社で議論を重ねました。こうしたプロセスを通じて、当社として重点的に取り組むべきテーマを整理し、事業経営におけるマテリアリティとして再設定しています。

新マテリアリティは、「イノベーションで未来創造」「自然および地域との共生の実現」「事業基盤の強化」の3つです。これらは、当社の持続的な成長と社会価値の創出に向けた重点領域として位置付けています。さらに、各マテリアリティの下に重要テーマおよびサブ課題を設定することで、経営の方向性を具体的な施策へとつなげ、サステナビリティ経営の実効性を高める構成としています。

今回の再設定では、事業経営におけるマテリアリティの

特定に加え、組織・事業・戦略への組み込みを意識しながら、当社のサステナビリティ経営をより実効性のあるものへと高めることを目指しています。

特に、環境負荷の低減や資源循環の推進、製品の安全性・品質の向上、人財の育成と多様性の尊重、コンプライアンスやリスクマネジメントの強化など、各テーマを個別の取組みにとどめず、経営全体の方向性と連動させて推進していくことが重要であると考えています。これにより、サステナビリティを事業成長と企業価値向上を支える重要な経営基盤として位置付けています。

サステナビリティ委員会では、再設定したマテリアリティについて議論を行い、今後のサステナビリティ経営の方向性を確認しました。今後は、再設定したマテリアリティを起点に、KPIおよび目標の具体化を進め、事業計画や各部門の取組みへ着実に落とし込み、継続的な実行と見直しを図っていきます。さらに、進捗状況を定期的に確認しながら、社会や事業環境の変化に応じて柔軟に対応し、企業価値の向上と社会課題への対応を両立していきます。



各部門リーダーによる目標・KPI設定の協議風景

マテリアリティ	重要テーマ	サブ課題
イノベーションで未来創造	アルミニウムの可能性の追究	●アルミニウムの特性を活かした製品の開発
	持続可能な社会への貢献	●環境対応製品の開発 ●新たな社会ニーズへの迅速な対応
	健康で快適な暮らしへの貢献	●暮らしの改善に貢献する商品の創出 ●健康生活に貢献する商品の創出
自然および地域との共生の実現	地球と資源の健全性の保護	●温室効果ガス排出量の削減 ●廃棄物削減の推進 ●リユース・リサイクルの推進
	地域コミュニティとの共栄	●地域コミュニティとの協働
事業基盤の強化	価値創造を推進する人と組織づくり	●自律型人財の育成 ●働き方改革の推進 ●安全衛生の推進 ●多様性の尊重
	信頼される製品・サービスの提供	●製品の安全性、品質の向上 ●製品の安定供給の確保 ●サプライヤーとの関係強化
	ガバナンスの強化	●リスクマネジメントの強化 ●コンプライアンスの遵守 ●責任のあるバリューチェーンの構築



サステナビリティマネジメント

新マテリアリティに対する役員メッセージ



素材の力を磨き抜き、新たな価値を提供する

世界的な環境意識の高まりと産業構造の変化により、素材メーカーに求められる役割は大きく広がっています。当社は長年培ってきたアルミ箔、機能材料技術を基盤に、環境負荷低減と新たな価値創造に取り組んでいます。軽量化、放熱性、導電性、リサイクル性といった素材機能を磨き続けることで、社会課題の解決に貢献するとともに、持続可能な未来を支える素材メーカーとして、次世代へ新たな価値を提供してまいります。

長谷 穰

執行役員

箔事業本部八尾製造所ユニット、蒲原製造所ユニット、千葉製造所ユニット、素材箔営業ユニット並びに事業戦略チーム担当



パイプロダクトを活用し、環境負荷の低減へ

限られた資源を有効活用し、環境負荷を減らす取り組みが進む中、パウダー・ペースト事業でも、製造過程で必ず発生する副産品（パイプロダクト）をいかに有効活用するかが重要な課題です。そのため、私たちは以下の取り組みを重視しています。

- ・製品収率の向上
- ・パイプロダクトを活用した新製品の開発
- ・パイプロダクトの販売先拡大

今後は、グローバル事業部の強みを活かし、日本国内だけでなく海外拠点も含めて、最適な生産地や販売先を検討し、環境負荷の低減と収益性の向上を両立していきます。

上田 明弘

執行役員

パウダー・ペースト事業本部新庄製造所ユニット、日野製造所ユニット並びに事業戦略ユニット担当

ダブルマテリアリティ視点で、誇れる会社と感動を創る

当社の持続可能性における重要課題（マテリアリティ）は、ダブルマテリアリティという2つの視点から定めています。これは、社会や環境への影響と、当社事業への影響の両面を捉えながら、当社のビジョンである「自分にも、世界にも誇れる会社」を目指すものです。その中で、加工品事業としては、「2031年プラン」を念頭に、事業に関わる全ての関係者の皆さまが、いつまでも、安心・安全に働ける環境を目指します。その上で、社会・市場・顧客に感動をお届けできるようなイノベーションを創出し、持続的な成長につなげてまいります。

有馬 正悟

執行役員

箔事業本部群馬製造所ユニット、茅ヶ崎製造所ユニット、加工品営業ユニット、加工購買調達チーム、加工収益改善チーム並びに加工技術開発チーム担当



環境対応と機能材の成長市場で、グローバルに躍進

新マテリアリティは、アルミニウムパウダー・ペーストを核とした私たちの強みを基盤に、環境価値の創出と事業成長を両立する指針です。ペーストビジネスでは意匠材としてのシェア拡大に加え、環境対応製品の提案を通じて顧客価値の向上に貢献していきます。一方、機能材ビジネスではアルミパウダーや窒化アルミ、メッキ技術を軸に、放熱・導電用途での採用拡大を通じて成長市場を確実に取り込んでまいります。これらの取り組みにおいては、当社のコアコンピタンスを起点とした価値創造を軸に、他社との協業も積極的に活用し、グローバルでの事業拡大を加速してまいります。

溝下 貴夫

執行役員

パウダー・ペースト事業本部営業ユニット担当



「0→1（ゼロイチ）」の挑戦と共創で、持続可能な未来を創り上げる

「イノベーションで未来創造」の実現に向け、より軽量の太陽電池パネルの開発や、蓄電池ビジネスの推進に取り組み、再生可能エネルギーの普及と活用、温室効果ガス排出量の削減に貢献しています。さらに防錆塗料の展開により社会インフラの長寿命化や地域のレジリエンス向上に寄与していきます。また、スパム トーヤル社（インド）新工場竣工を機に、信頼される製品・サービスをグローバルに展開し、強固な事業基盤を構築します。

創立100周年に向けた『TIP31』*の活動を、先端事業本部と推進し、「0→1」の挑戦と現場起点の共創を加速させ、持続可能な未来をみんなで創り上げます。

森岡 桂

執行役員

新事業創造部門担当、Svam Toyal Packaging Industries Pvt. Ltd. Managing Director



生活者に寄り添い、健康で快適な暮らしを創造する

日用品事業本部は、消費者やユーザーに最も近く、サステナビリティ活動に敏感で積極的なお客さまが数多くいらっしゃいます。こうした中、従来のサステナビリティ活動は今や当たり前のこととなり、今後は、見直した新マテリアリティに掲げた「イノベーションで未来創造」に一層力を入れていきます。「アルミ×環境」や「生活環境の空気をきれいに」といった生活者の健康で快適な暮らしを創造する製品を通して、日用品事業のみならずグループ全体の社会的価値の創出にも貢献できるよう努めてまいります。

酒井 大典

執行役員

日用品事業本部担当、東洋アルミエコープロダクツ株式会社 代表取締役社長

* TIP31：Toyal Innovation Plan 2031
2031年（東洋アルミニウム（株）創立100周年）を目指した新事業創出の取り組み

サステナビリティマネジメント

推進体制

当社では、サステナビリティを経営の重要課題の一つとして位置付け、事業活動を通じ持続的な価値創造に取り組んでいます。近年、サステナビリティに対する社会的要請は一層高まっており、企業には環境・社会・ガバナンスの各側面において、より具体的かつ実効性のある対応が求められています。こうした認識のもと、当社ではサステナビリティ経営の実践に向けて、社内の理解促進と体制整備を進めています。その中核となるのがサステナビリティ委員会です。委員会は、サステナビリティに関する重要事項を役員が議論・確認する場として位置付けており、経営の視点から対応方針や今後の進め方を検討しています。2025年度は、サステナビリティを取り巻く最新動向を踏まえ、さまざまなテーマについて議論しました。

また、サステナビリティに関する理解をさらに深めることを目的に、外部講師による講演会を実施しました。講演では、サステナビリティをめぐる世界的な潮流、企業に求められる対応

の変化、今後の情報開示や実務対応の方向性について説明がありました。

特に、サステナビリティは経営の中核に位置付けられるテーマであり、企業の在り方そのものが変化していく過程にあること、また、今後はより詳細な情報開示や、制度化を見据えた継続的な対応が重要になることを確認しました。これにより、委員会メンバーおよび関係部門において、サステナビリティ経営に対する理解を一層深める機会となりました。

サステナビリティ委員会 開催内容	
2025年6月	人権デュー・デリジェンス
2025年8月	サステナビリティ活動およびSustainability Report 2025制作
2026年2月	2025年エコバディス評価 GHG総排出量算定結果および削減計画策定の方向性 講演「サステナビリティの最新動向と対応」
2026年3月	マテリアリティ再設定 社会貢献活動

国連グローバル・コンパクトへの署名

東洋アルミグループは、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組みである国連グローバル・コンパクトに2018年4月に署名しています。国連グローバル・コンパクトの掲げる4分野「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」に関する10原則にのっとり、グローバル企業として責任のある経営と、グループ横断的なサステナビリティ活動を積極的に推進することで、持続可能な社会の実現に貢献していきます。



Topics

エコバディス(EcoVadis)評価

東洋アルミグループでは、サプライチェーン全体におけるサステナビリティ対応の重要性の高まりを受け、EcoVadis評価への取組みを推進しています。

2025年の評価においてスコア56点を取得し、一定の取組みが認められた組織に付与されるコミテッドバッジを獲得しまし

た。現時点では、相対評価で上位の組織に付与されるメダルの取得には至っていませんが、創立100周年を迎える2031年度までにゴールドメダルを獲得することを目標としています。

評価結果を分析することで改善ポイントを明確化し、社内の関連部門と連携しながら取組みの高度化を進めていきます。

TOYO ALUMINIUM KK (GROUP)

Osaka・日本 | [第一次貴金属・その他非鉄金属製造業](#)

企業規模: L ① | 評価範囲 **グループ** ①

総合得点

➤ **56/100**

パーセンタイル ①

46

COMMITTED

ecovadis

Sustainability Rating

DEC 2025

2025年評価のスコアカード

5つのマテリアリティ

CSR活動アクションプラン

東洋アルミグループでは、創立100周年の2031年に向けて策定した東洋アルミグループ・サステナビリティ・ビジョンを念頭に置き、5つのマテリアリティについて、目標を設定して取り組んできました。2025年度の活動実績は、下表の通りです。次頁以降ではマテリアリティごとの具体的な取組み内容を掲載しています。2026年度以降は、新たに設定したマテリアリティ(p.13-14参照)に基づき、2031年度の目標達成に向けた取組みを一層推進していきます。

マテリアリティ	主な活動項目	2025年度の活動実績	長期目標(2031年度)
1 未来を創る イノベーション	既存事業:SDG3,7,9,11,12に貢献する製品売上向上	SDGs貢献製品売上金額 2019年度比 0.5%増加	SDG3,7,9,11,12に貢献する製品売上高3倍に増加(2019年度比)
	新規事業: 第4の柱(事業)を創出	・Hane [®] Moduleを起点としたエネルギービジネスへ領域拡大 ・半導体関連製品(ALU-SAP [™] 、SiGe基板)の事業化に向けた取組み継続中 ・新規事業創出に向けた0→1活動『TIP31』の開始	事業化2件
2 環境保全	事業活動からのCO ₂ 排出量削減(2013年度比)	2013年度比 35.2%削減	40%削減(2013年度比)
	太陽電池のリサイクルシステム構築	太陽電池リサイクルシステムの技術関連開発動向を注視	太陽電池リサイクルシステムの構築、リサイクル開始
	アルミニウムのリサイクルシステム構築	・顧客からのスクラップ収集によるリサイクル率向上 ・市場からのスクラップ収集によるリサイクル率向上 ・加工屑スクラップからアルミ、樹脂を分離する小型ベンチプラントの試運転開始	(構築したシステムによる)アルミニウムリサイクルの一般化
	紙容器のリサイクルシステム構築	滋賀工場で発生する紙工程屑を100%リサイクルし、一部を商品の化粧箱に活用、残りはトイレトペーパー等へ再資源化	(構築したシステムによる)紙容器リサイクルの一般化
	事業活動からの産業廃棄物削減	前年度比 4.3%削減	最終埋め立て産業廃棄物量ゼロ(全てリサイクルでゼロエミッション)
3 多様な 人財の活躍	女性採用比率の向上	新規採用における女性比率27.3%	新規採用における女性比率30%
	シニア人財の活躍	再雇用後の処遇見直し継続中	70歳定年制を中心とした制度の整備完了
	自律型人財の活躍	短期海外留学 立候補者2名派遣	自律型人財の育成の発展的な継続
	健康経営の推進	「健康経営優良法人2026(大規模法人部門)」認定	健康経営の発展的な継続
4 品質と安全	重大品質クレームの削減	重大品質クレーム0件	重大品質クレームゼロ
	休業災害、不休業災害、火気事故災害の削減	休業災害1件、不休業災害11件、火気事故7件、微傷災害15件	休業災害ゼロ、不休業災害ゼロ、火気事故災害ゼロ、微傷災害半減(前年度比) 重点取組事項:回転物関連・運搬具・場内転倒事故対策の強化
5 ステークホルダー との協働	さまざまなステークホルダー(地域、顧客、従業員など)との対話を通じて信頼度・満足度の向上	・人権についての社内ダイアログ1件実施 ・メディアでの情報発信や社内広報に注力 ・学生・生徒・児童への支援実施	さまざまなステークホルダーと良好な関係を築き、課題解決の一翼を担っている

1 Materiality 未来を創るイノベーション

社会や市場の変化に対応するため、「既存」「新」「次世代」の3つの市場へ戦略的に資源を投入し、研究開発を推進しています。産学連携のオープンイノベーションを通じて共有価値を創造し、アルミニウムの枠にとらわれない新しい発想で世界をリードする企業を目指します。

新宮 生成AIや5G、自動運転などの進化により、電子基板には高速化・微細化が強く求められています。そこで当社は、アルミ箔の表面処理技術を活用した「ALU-SAP™」という新しい工法を開発しました。従来の基板製造とは異なるアプローチで高性能化を実現する技術で、その開発にあたっては、「アルミ箔そのものを売る」のではなく、「表面を売る」という発想転換が重要でした。また、お客さまにとってはまったく新しい基板製造方法になることから、基板製造の「工法」そのものを開発し、提供しています。

世界のIT企業が注目する革新性でグローバル市場へチャレンジ

新事業創造部門
新事業創造ユニット 開発営業チーム
矢野 諒

目指すは独立事業！
アルミ箔の表面処理技術で新たなビジネスへ

先端技術本部
新素材研究ユニット 第二開発チーム
新宮 享

ALU-SAP™

矢野 電子基板の高性能化は世界的なテーマであり、「ALU-SAP™」は従来にない革新的な工法として注目されています。実際に採用いただいた基板メーカーさまからは、従来では実現できなかった性能が得られたと高い評価をいただいています。しかし、世界のIT企業に採用されるようなグローバルスタンダードの工法となるためには、さらに実績を積み、この工法がどのように優れているかをデータで示し続ける必要があります。

新宮 「ALU-SAP™」はすでに製品として提供を開始しましたが、グローバル

な電子基板市場のほんの入口にたどり着いた段階です。今後は量産への課題を一つずつ克服し、事業部として独立できるビジネスに育てていきます。
矢野 「ALU-SAP™」が世界標準の工法になれば、日本の半導体関連産業の持続的な成長にも貢献できます。当社にはアルミ箔表面処理の多様な技術がありますので、それらをさらに磨き上げ、電子基板業界に継続的なイノベーションを提供していきたいと考えています。

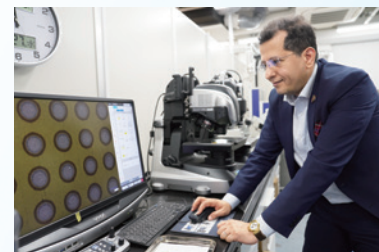
東洋アルミのオンリーワン技術であるSiGe基板で、環境負荷の低減に貢献します

シニアスペシャリスト
国立大学法人 大阪大学 出向
東洋アルミニウム半導体共同研究講座 特任教授
ダムリン マルワン

多様な応用可能性と市場性があるSiGe基板の量産化に向けた開発を進めています

先端技術本部
新素材研究ユニット
第二開発チームリーダー
南山 偉明

マルワン シリコンゲルマニウム(以下SiGe)は、シリコン単体よりも高性能な半導体や太陽電池を実現できる材料として注目されています。しかし、従来のSiGe基板の製造には大規模装置と複雑な工程が必要で、コストが高いという課題がありました。東洋アルミには太陽電池用電極材料として培ってきた「アルソーラー®」の技術があり、それを応用することで非常に簡易な工程でシリコンウェハ上にSiGe基板を作製できる技術を開発しました。つまり、この研究開発は東洋アルミのオンリーワン技術です。2020年からは大阪大学との産学連携で製品化に向けた研究開発に取り組んでいます。



南山 SiGe基板には多様な応用可能性があります。太陽電池としての展開に加え、SiGe基板自体が半導体素子として機能するため、ダイオードやトランジスタなどのデバイスにも展開できます。現在、私たちが最も注力しているのはダイオード用途の開発です。試作したダイオードは

SiGe基板

すでに優れた特性評価を得ており、2028年の製品化を目指してサンプル提供やユーザー評価を進めています。

マルワン ダイオードは半導体素子ですから、既存の製造プロセスは半導体と同じで前工程だけで何十ステップにもなる複雑なものです。それに対して私たちのプロセスは、アルミニウムとゲルマニウムを含む特殊なペーストを作製し、それをシリコンウェハ上に印刷し、焼成して研磨するだけのわずか4ステップです。しかも、SiGeのダイオードは従来のダイオードに比べ低電圧で電流を流せるため電力ロスが少ないという特長があります。このSiGeダイオードが普及すれば、製造プロセスの環境負荷低減に加え、使用される製品の省エネルギー化、ひいてはCO₂排出量削減にも貢献します。

南山 電力ロスが少ないという特性を活かして、SiGe基板は交流と直流を変換するパワー半導体など、電力制御分野での活用も期待されます。また、高効率太陽電池は現在、人工衛星などの限られた用途にしか使用されていません。しかし、2026年3月に終了した3年間の

NEDOプロジェクト(大阪大学・東洋アルミニウム(株)・産業技術総合研究所・名古屋大学)において、私たちは、2030年頃の実用化を目指し、高効率太陽電池に向けたSiGe/Siサンプルプラットフォームの利用可能性を実証することに成功しました。当社の技術により大幅なコストダウンが可能となり、将来的には、これらの太陽電池を電気自動車の屋根に搭載し、走行しながら充電する未来も見えてきます。パワー半導体と太陽電池の両面から、さまざまな分野での需要拡大を見据えながら、今後も開発を推進していきます。

マルワン SiGeは半導体材料として、量子コンピュータやスピントロニクス*といった次世代技術の分野でも注目されており、多くの研究論文が発表されています。ダイオード開発の次のステップとして、最先端サイエンスも視野に入れながら、東洋アルミのオンリーワン技術であるSiGe基板の研究開発を発展させていきたいと考えています。

*スピントロニクス(Spintronics): 電子の電荷と磁気的性質(スピン)の両方を制御・利用する次世代技術で、待機電力ゼロの超低消費電力デバイスの実現などが期待されている。

2 環境保全

Materiality

製品による貢献に加え事業活動全体での環境負荷低減を重視し、省エネルギー、省資源、リサイクルを推進しています。ISO14001に基づく環境マネジメントを運用し、法令遵守とトラブル防止に努め、地球環境と調和した持続可能な経営を推進します。

環境への取組みは、経営の重要テーマの一つです。東洋アルミグループでは、環境方針を策定・公表するとともに、マテリアリティの一つとして目標を設定し、環境保全活動に取り組んでいます。

また、気候変動への対応をはじめ、ステークホルダーからの要請は年々高まっており、製造現場では、環境データの収集や情報開示に関する業務も増えています。その中で、環境対策を単なるコストではなく、企業価値を創造する活動へと転換するためには、全社で環境マネジメントを進める仕組みを整え、実効性のある運用につなげていくことが不可欠です。CSR推進チームでは、まず各製造所を訪問し、現場の環境活動の実態把握から始めました。社内で実施している環境監査での指摘事項を整理してフィードバックするとともに、優れた改善事例は全社標準として展開しています。やみくもに活動を増やすのではなく、現場の負担に配慮しながら、活動の質を高める支援を心掛けています。

また、全社の環境マネジメントを進める上では海外の関連会社も当然対象になります。現地駐在スタッフを通じて

ヒアリングや資料収集を行っており、今後は必要に応じて訪問調査も検討していきます。

さらに、情報開示の仕組みづくりも進めています。当社ではすでに「サプライチェーン全体での温室効果ガス排出量」などを開示していますが、ステークホルダーが必要とする環境情報を一元的に届けられる仕組みを整えていきます。CSR推進チームの役割は現場支援にとどまりません。現場での取組みや課題

認識を、会社としての方針や経営の考え方につなげていくことも重要です。今後求められる環境対策や、人財の確保・育成なども含め、全社的な環境保全活動のマネジメントレビューを実施することを当面の目標にしています。東洋アルミグループが持続的に成長していくために、環境マネジメントの仕組みそのものを進化させ続け、現場と経営をつなぎながら、より実効性の高い仕組みへと育てていきます。

実効性の高い仕組み

環境保全を、
企業価値を高める
活動へと進化
させていきます

コーポレート本部
事業支援ユニット
CSR推進チーム
藤井 大海

グループ会社との気候変動対応協議

環境方針の一つである気候変動対策としてGHG総排出量を削減するための施策検討を進めています。その第一歩として、グループ内で排出量算出の精緻化作業を行っています。



トヨタMMPインドシア社との協議風景



東洋アルミエコープロダクツ(株)との協議風景



有機物磁気熱分解装置の導入

新庄製造所では「環境負荷の低減」と「資源循環の推進」を目的として、有機物磁気熱分解装置を導入しました。

これまで焼却処理していた廃プラスチック類を熱分解処理に切り替えることで、約1/300まで減容でき、廃棄量の大幅な削減とCO₂排出量の抑制に寄与します。

また、ポリ塩化ビニルを除く各種プラスチック類、紙、布など、ほとんどの有機物の処理が可能です。

分解時に発生する熱エネルギーを有効活用できれば、循環型社会の構築にも貢献し、事業の長期的な価値向上につながる取組みとなります。



有機物磁気熱分解装置



商品全体がリサイクル設計のサンホイル®

国内メーカーとして初めて、リサイクルアルミを70%以上使用したアルミホイル「サステナアルミ®」を商品化しました。さらに、化粧箱には、東洋アルミエコープロダクツ(株)滋賀の紙工場で発生する製造工程内損紙を100%再利用した紙素材を採用しています。アルミホイル本体だけでなく、化粧箱に使用する紙に至るまでリサイクル素材を活用することで、CO₂排出量の削減に貢献しています。「商品全体がリサイクル設計のサンホイル®」として、2026年4月よりアスクル株式会社を通じて先行販売を開始しました。



サンホイル®



リサイクルアルミビジネスの取組み

東海東洋アルミ販売(株)シンガポール支店では、CO₂排出量の削減と限りある資源の有効活用に向け、リサイクルアルミビジネスに取り組んでいます。その一環として、世界各国の自動車部品やサッシなどに使用されたアルミスクラップをインドの当社グループ会社へ供給することを検討しています。同社では、回収したアルミスクラップを原料として

アルミ再生地金を製造します。アルミスクラップにはネジやゴムなどの不純物が多く含まれるため、適切な品質管理が必要です。こうした課題はありますが、循環型社会の実現に向けた重要な取組みとして、今後本格的に展開していきます。



回収されたアルミスクラップ

健康経営

倉橋 従業員の健康は、事業経営においても、そして従業員一人ひとりの幸せを実現する上でも欠かせない要素です。当社は「従業員の健康こそが全ての事業活動の土台である」という考えのもと、健康経営を推進してきました。その取り組みの一つの目標として掲げてきたのが、経済産業省による「健康経営優良

法人」認定です。2026年3月に「健康経営優良法人2026(大規模法人部門)」として認定されたことは、全社的な取り組みが形になった成果だと捉えています。



泉 東京オフィスでは、コロナ禍明けから従業員の健康増進イベントに積極的に取り組んできました。参加者をさらに増やすにはどうすれば良いかと、10年近く一緒に活動してきた保健師の富塚さんと相談し、組織として目標に挑戦することで活動を活性化していくことにしました。その一環で、スポーツ庁の「スポーツエールカンパニー企業」と東京都の「東京都スポーツ推進企業」への認定取得を目指すことにしました。結果としてスポーツ庁からは2024年度・2025年度、東京都からは2025年度に認定を受けることができました※。



肩こり・腰痛・快眠ビズヨガのレッスン風景

富塚 健康習慣にはさまざまなアプローチがありますが、当社の場合は「運動習慣」が強みとして根付いています。そこで、運動を軸に健康意識を高める取り組みを進めています。

特に、運動習慣が最も少ないとされる30～40代女性も参加しやすいよう、昼

休みに「ランチヨガ」教室を開催しています。また、誰でも気軽に参加できるアプリを活用したウォークイベントなど、多様なプログラムを展開しています。

泉 年度初めに年間イベントをポスターなどで周知し、さらに参加者自身が周囲に声をかけてくれたことで、参加者数は右肩上がりに増えています。特にウォークイベントはチーム制を導入し、歩数を競い合うことで大いに盛り上がりました。イベント後には自主的にオフ会が開かれるなど、健康増進にとどまらず、コミュニケーション活性化にもつながっています。

倉橋 当社では拠点ごとに工夫を凝らしながら健康増進活動を進めています。グループ会社でも「健康経営優良法人」の認定を受けた企業や、認定に向けて取り組んでいる企業があります。東京オフィスのように、外部認定を活用して活動を活性化した事例はとても参考になります。今後は、こうした成功事例を横展開し、各拠点やグループ会社へと健康経営の輪をさらに広げていきたいと考えています。

※東京都から「令和7年度 東京都スポーツ推進企業」に認定された656社の中でも特に先進的な取り組みや波及効果のある取り組みを行っている企業として、「令和7年度 東京都スポーツ推進モデル企業」として表彰されました。

3 Materiality

多様な人財の活躍

従業員の多様性や個性を尊重し、グローバル人財の育成や女性のキャリア支援に注力しています。性別やライフステージ、障がいの有無などにかかわらず、誰もが活躍できるよう、育児支援や職場のバリアフリー化、在宅勤務の導入など、働きやすい環境づくりを推進し、ライフワークバランスの実現を目指します。

Pick up ライン職群の女性の活躍

各製造所では、女性が安心して能力を発揮できる職場環境の整備を進めています。群馬製造所では女性用休憩室およびトイレの整備、八尾製造所では女性更衣室の整備、新庄製造所では2026年度に女性更衣室の整備を予定するなど、各事業所で取り組みを進めています。そんな中、蒲原製造所では裁断現場で女性初の夜勤を含む交替勤務を開始し

ました。これを受けて、製造所内の夜間移動時の安全性向上を目的とした照明の設置や、女性更衣室へのソファベッドの導入、トイレ外へ靴を置くことによるプライバシー・防犯面の課題に対応したトイレ内への靴置きスペースの設置など、勤務環境の改善も進めています。会社全体で勤務環境の改善や整備を通じて、性別を問わず働きやすい職場づくりを推進しています。

蒲原製造所ユニット
製造チーム 第二仕上係
瀧浪 朱里さん

裁断は自分の作業量が数字として可視化される、やりがいと達成感を感じられる仕事です。設備や環境が整ったことで、夜勤を含めて働きやすさも実感しており、今後はより多くの女性に製造現場で活躍してもらいたいです。



裁断機で製品コイルの幅を測定する瀧浪さん

Pick up 文化や考え方の違いを受け入れて成長する

海外グループ会社への出向を通じて、現地の文化や価値観の違いに向き合いながら業務に取り組む従業員に、現地での気付きや学びについて聞きました。

スバムトール社
AGM Technical
齋藤 光則さん

ナマステ！私はスバム トーヤル社に出向し、主に技術面、安全面での改善指導を担当しています。直近はJhajjar新工場の立ち上げに尽力しています。現地の方と仕事をする中で文化や価値観の違いをよく目の当たりにします。特にインドでは限られた条件の中で臨機応変に対応し、問題を解決する「Jugaad」と呼ばれる考え方が浸透しており、日本で一般的な、計画を立てて実行する考え方とは大きく異なります。時には意見が対立することもあります。双方の良い部分を取り入れながら日々業務に取り組んでいます。このように考え方の違いを受け入れ、自分の中に吸収しながら、今後の成長につなげていきたいです。



Jhajjar新工場の外観



現地社員と製品チェック

4 Materiality 品質と安全

私たちはISO9001に基づき継続的な品質改善に取り組んでいます。安全面では、各事業所の安全衛生委員会とグループ安全統括チームが一緒になって労働安全衛生活動を推進しています。今後も、社会規範を遵守しながら、品質・安全のさらなる向上に努め、お客さまから一層信頼いただける企業を目指します。

互いに啓発し合いながら、日常的に語り合える「安全文化」を目指します

企業の信頼と信用を支える「品質」の継続的な改善を進めています



常務執行役員
内部監査チーム、グループ安全統括チーム並びに
コーポレート本部人事ユニット担当

辻野 雅佳

執行役員
コーポレート本部総務ユニット、事業支援ユニット、品質
保証ユニット並びに原料チーム担当

新田 敏彦

辻野 当社が掲げる「安全と品質は会社の命」という言葉には、「笑顔で出社して笑顔で帰宅してもらえる」会社であり続けることが、安全の大前提であるという思いが込められています。また、重篤な労働災害や火災・爆発事故は、従業員の安全を脅かすだけでなく、企業の存続に関わる重大事態につながります。東洋アルミグループは業績の向上とともに、安全活動においても全社一丸となって取り組んでいます。

新田 品質もまた、企業の信頼と信用を支える根幹です。私たちは過去に品質に関する不適切行為の再発防止に取り組んだ経験から、その重みを痛感してきました。「安全と品質は会社の命」をスローガンに「不適切行為を誘発しない環境づくり」「不適切行為をしようとして

もできない仕組みづくり」「不適切行為が起きててもすぐ判明するような体制づくり」の3項目を軸に、継続的な改善を進めています。

辻野 結果的に軽微な事故であっても「一歩間違えば重大事故になり得た」ケースは少なくありません。今年度も「ルールをしっかりと決めて、きっちり守る」を合言葉にリスク低減に努めます。また、社長の安全パトロールは各現場で起こりうる重篤災害のリスクについてもう一度しっかりと確認してもらう場にしていき、重篤災害ゼロの実現を目指します。

新田 「不適切行為をしようとしてもできない仕組みづくり」として、測定機器のデータを直接取り込むなど、手入力を減らすデジタル化を進めています。また、品質保証においても「ルールをしっかりと決

めて、きっちり守る」ことを基本に、透明性を重視した活動を推進し、率直に意見を交わせる職場風土を築きます。

辻野 安全活動は、「指示された事はキチンと取り組む」段階から、今後さらに「社員が自主的に取り組む」段階への進化を目指しています。しかし、私たちの目標とする安全文化はさらにその先にあります。不安全な行動を見かけたら、誰もが自然に声を掛け合える職場、安全について日常的に語り合える文化をつくっていきたいと考えています。

新田 社長による品質の事業所対話会も今年で5回目を迎えます。初回と比べると、品質事故を未然に防ぐための予防的な意見や提案が着実に増えてきました。この流れをさらに発展させながらより強固な品質文化を築いていきます。

Pick up 品質と信頼で支える持続可能なものづくり

東洋アルミグループでは、「安全と品質は会社の命」を合言葉に、品質を持続可能な企業活動の基盤と位置付けています。2021年の品質問題を教訓に、私たちは不適切行為の再発防止を単なるルール遵守にとどめず、持続可能な企業活動を支える重要な経営課題として位置付けています。

具体的には、「不適切行為を誘発しない環境づくり」「不適切行為をしようとしてもできない仕組みづくり」「仮に起きてもすぐに判明する体制づくり」の3本柱で取り組みを進めています。経営層による事業所対話会や品質教育を通じて、現場の声を丁寧に拾い、風通しの

よい職場づくりを推進しています。

また、試験機器からのデータの自動取り込み、文書の電子化、AIによる照合などを通じてDXを推進し、改ざんや転記ミスリスクを低減しています。さらに、内部監査や内部通報制度を活用し、問題の早期発見と迅速な是正を

図っています。品質の維持・向上は、顧客の信頼を守るだけでなく、手戻りや廃棄の削減、資源の有効活用にもつながります。

今後も、誠実で公正なものづくりを通じて、社会と共に持続的に成長する企業を目指します。



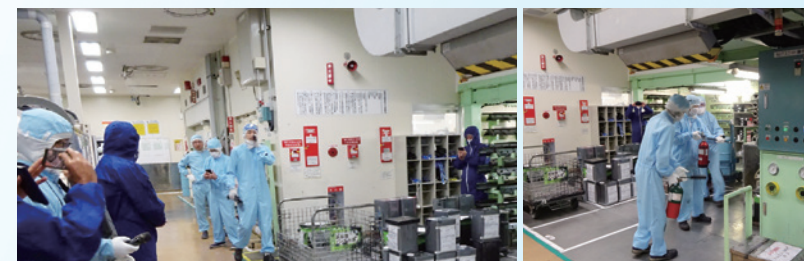
安全と品質は会社の命

Pick up 小集団による初期消火訓練

当社では、国内全拠点において、拠点全体で実施する火災訓練に加え、小集団による初期消火訓練を継続的に実施しています。拠点全体の訓練では実際に動く人が限られがちですが、小集団訓練では3～5人程度の少人数で行うことで、参加者一人ひとりが初動対応を実践的に体験できるようにしてい

ます。火災は発生直後の3分間が延焼を防ぐ上で特に重要であり、この時間内に連絡、集合、消火につなげられるかが大きな分かれ目になります。訓練時には他職場の担当者が第三者の立場で立ち会い、訓練後に課題を振り返る時間を設けています。これにより、消火のタイミングや役割分担が適切だったかを確認し、実践上の課題を具体的に洗い出しています。

こうした訓練を通じて、参加者が実際に動き、役割を体験する機会が増えるため、知識の習得にとどまらず、現場で必要な対応力の向上にもつながっています。振り返りでは、消火器の選び方や、少人数で火災が起きた際の連絡・集合・消火の進め方などを確認し、改善点を次回の訓練に反映しています。今後は、初期消火から避難への切り替えなど、より実践的な判断力を高める訓練へと内容を充実させるとともに、海外拠点への展開も進めていきます。



群馬製造所での初期消火訓練見学会

フィルたん®

細里 「フィルたん®」は、当社の汚れ防止フィルターのブランドです。汚れ防止フィルター商品の発売は35年以上前にさかのぼり、ライフスタイルや換気機器の変化に合わせて商品ラインナップを拡充してきました。当社の製品シリーズであることが一目で分かるよう、2015年に「フィルたん®」ブランドに統一し、パッケージにキャラクターを表示するようにしました。

大町 ブランド誕生10周年を迎えた2025年には、4つのキャンペーンを実施しました。その一つである「夏休み! フィルトン®イラストコンテスト」は、「おたのしみマークキャンペーン」※などで生活者から寄せら

れるはがきにフィルたん®の手書きイラストが添えられていることが多かったことから、生活者の皆さまにフィルたん®により親しんでいただきたいという思いで企画しました。お子さまからの応募も多く、幅広い世代に愛されるフィルたん®の人気を改めて実感しました。

細里 イラストコンテストの開催で驚いたのは、社内での反響です。受賞作を決めるため応募作品を社内に掲示したところ、多くの社員が熱心に見てくれ、作品へのメッセージも数多く寄せられました。生活者と直接コミュニケーションを取る機会が少ない部署の社員にも、このイラ

ストコンテストを通じてフィルたん®の人気を知ってもらい、生活者とのコミュニケーションの大切さを認識してもらえたことは、とても良かったです。

大町 「フィルたん®」は交換時期が分かるように、汚れると「交換お知らせサイン」が表れるようになっています。そのサインにフィルたん®の柄を増やしてほしいという意見を受けて、商品を改良しました。このように、生活者の皆さまとのコミュニケーションを大切にすることでより良い商品づくりに貢献していきます。また、商品だけでなく、広告やパッケージなどの表現においても、ジェンダー平等といったサステナビリティの観点からご意見をいただきますので、そうしたご意見も社内に反映させながら生活者とのコミュニケーションを発展させていきたいと考えています。

細里 キャクターの人気に負けないよう、商品自体もより安心・安全で使いやすいよう常に進化しています。パッケージにフィルたん®があったら「安心で良いフィルターだから買いたい」と思ってもらえるようなブランドを目指していきます。

※「おたのしみマークキャンペーン」：東洋アルミエコープロダクツ(株)の製品に付いている「おたのしみマーク」を集めて応募するとステキなプレゼントが当たるキャンペーン



ようこそ、日野製造所へ！ 地元小学生社会科見学

日野製造所は、地元の小学校から社会科見学の要望を受け、2校からそれぞれ小学3年生40名、小学5年生6名を対象とした工場見学を実施しました。子どもたちに、ものづくりの現場を実際に見て、感じてもらう機会となりました。

当日は、担当者が工場内の設備や作業の流れについて、できるだけ分かりやすく説明しました。普段は目にする事のないアルミニウムパウダーの製造工程や、品質を保つための工夫、安全に作業

を進めるための取組みなどを紹介すると、子どもたちは興味深そうに耳を傾け、熱心に見学していました。実際に現場を見ながら説明を受けることで、ものができあがるまでの流れをより身近に感じてもらえたようでした。

見学後は、「仕事で大変なことは何ですか」「アルミニウムの粉がこんなに身近に使われていると思わなかった」など、たくさんの質問や感想が寄せられました。担当者にとっても、子どもたちの素



社会科見学の様子

直な疑問や関心に触れられる貴重な時間となり、一つひとつの質問に丁寧に答えながら、楽しく交流を深めることができました。

今回の工場見学を通じて、地域の子どもたちに、働くことやものづくりの魅力を伝えることができました。今後も当社は、教育機関や地域社会との連携を大切にしながら、次世代育成や地域貢献につながる活動を継続していきます。

ステークホルダー との協働

生産活動や雇用を通じた貢献に加え、地域社会と協働して文化事業や環境保全活動、フードバンクへの支援などを積極的に行っています。学生・生徒・児童の受け入れによる次世代育成や、地域清掃、被災地支援などの社会貢献活動を推進し、持続可能な社会の実現と企業価値のさらなる向上を目指します。



水族館átoa (アトア) との協働

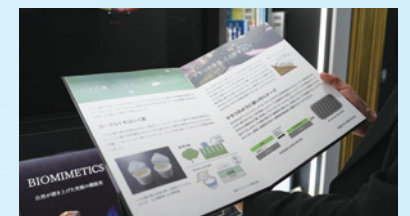
東洋アルミニウム(株)は2025年1月、アトアと大阪ECO動物海洋専門学校が企画した展示「Nature LAB」に協力しました。本展示では、生きものが持つ優れた性質を技術開発に活かす「バイオミクリー」に関連した商品・技術として、当社製品のトーヤルロータス®が紹介されました。その後、企画の内容が評価され、巡回展をはじめ、さまざまな形で展開していただく機会につながりました。現在もアトア館内に展示されているバイオミクリーをテーマにした書籍内でトーヤ

ルロータス®が紹介されています。アトアは、多くの来場者に多様な展示を見ていただける強みを活かし、企業や教育機関と連携しながら、自然環境の課題への気付きを促す取組みを行っています。当社も今回、アトアとの連携を通じて当社製品や技術を紹介する機会を得て、展示を通じた新たなコミュニケーションの可能性を見出しました。今後も単独では実現が難しいことも、互いの強みを活かして連携することで、新たな価値の創出を目指していきます。



水族館átoa
飼育展示課
半田 千尋さん

生きものの魅力を伝えることを大切にしながら、まずは興味を持っていただき、その先で生きものを取巻く環境にも目を向けてもらえるような取組みを進めていきたいと考えています。今後も、バイオミクリーを一つの軸として、連携を通じた発信を続けていきたいです。



展示の様子

フィルターの妖精



フィルたん®

- 性 格 のんびり屋さん
- チャームポイント ハートのしっぽ
- 好きなもの おでかけ・おいしいもの
- 好きな場所 おうちの空気の通り道
- 身 長 15cm (換気扇と同じ)

フィルたん®のイラストコンテストは社内でも大きな反響がありました

生活者とのコミュニケーションを発展させて、商品の改善に活かしていきます

東洋アルミエコープロダクツ株式会社
マーケティングユニット
プロダクトマネジメントチーム

細里 あさ美

東洋アルミエコープロダクツ株式会社
マーケティングユニット
コミュニケーションデザイン推進チーム

大町 美穂

社会貢献活動 ～全社で育て・広げる社会貢献活動へ～

東洋アルミグループでは、各事業所で培ってきた社会貢献活動を全社でつなぎ、さらに広げていく取組みを進めています。今後は、地域と協働しながら、東洋アルミらしい活動をより継続的に推進していきます。

東洋アルミグループの社会貢献の考え方

東洋アルミグループは、持続可能な社会の実現に向けて、地域と協働しながら、積極的に社会貢献活動を推進していきます。従業員が主体的に、そしてイキイキと社会貢献活動に参加できるよう支援を行います。

東洋アルミグループの重点活動項目

東洋アルミらしさを活かしながら、重点的に取り組んでいく活動です。



環境保全

清掃活動や森林保全などを通じて、地域の環境美化や生物多様性の保全に貢献していきます。



次世代育成

出前授業や工場見学などを通じて、未来を担う世代に、ものづくりの魅力やアルミの面白さを伝えていきます。



災害支援対応

災害時の支援や物資提供などを通じて、被災地や地域の復旧・復興を支援していきます。



地域との共生

地域の発展や課題に寄り添いながら、地域行事への参加や地域とのつながりを深め、地域社会に根差した活動を進めていきます。

活動を支える推進体制づくり

全社で連携しながら、従業員が主体的に参加できるよう、活動を継続的に進める体制や支援の仕組みを整えていきます。全社一丸となって、東洋アルミらしい社会貢献活動を育て、広げていきます。

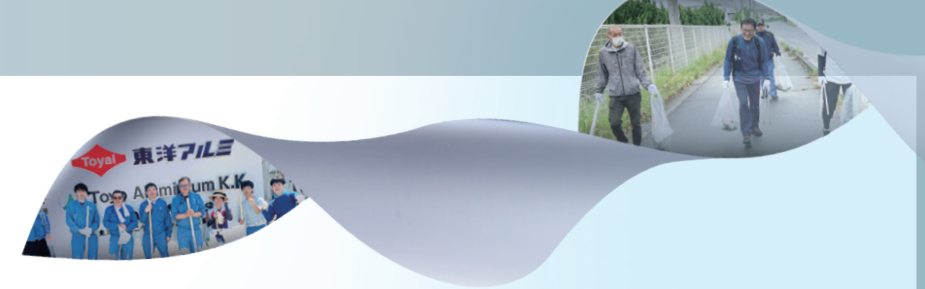


各拠点の地域清掃活動

地域社会への貢献の一環として、各拠点では地域の清掃活動に積極的に取り組んでいます。行政や地域団体と連携し、海岸や河川敷、道路沿い、住宅街、オフィス街など、さまざまな場所で行っています。

2025年5月25日、群馬製造所では有志9名が、群馬県が主催する環境美化運動清掃活動に参加しました。今年は地元企業27社が参加し、当製造所も地域の一員として活動に加わりました。また、八尾製造所と大阪オフィスでは2026年3月1日に「大和川・石川クリーン作戦 in 八尾」に初めて参加するなど、地域の清掃活動に積極的に取り組んでいます。

今後も、地域社会や環境への貢献を重要な取組みの一つと位置付け、地域の皆さまと連携しながら、こうした活動を継続・推進していきます。



清掃活動に参加する従業員



現地の子どもが描いた作品

タイの小学校で子どもたちの健やかな成長を支援

トーヤル(タイランド)社では、タイ中部のカンチャナブリー県にある小学校において、子どもたちが楽しめる遊び場づくりの一環として、インキを用いて校庭の地面に絵を描きました。現地コーディネーター、学校スタッフ、子どもたち、当社従業員が協力して完成させたこの遊び場は小学校へ寄贈され、現在は子どもたちが遊ぶ場として活用されています。今後も、子どもたちの健やかな成長を支援するとともに、地域社会に貢献する活動を継続していきます。



現地の小学生と従業員たち

「甲北防災フェスタ」に参加

東洋アルミエコープロダクツ(株) 滋賀工場は湖南市と災害時物資支援協定を締結しており、2025年9月「甲北防災フェスタ」に参加しました。支援活動の模擬訓練および展示ブースでの当社の紹介を通じ、地域住民や防災関係者とのコミュニケーションを図りました。その結果、物資の到着確認に関する課題を抽出できたほか、展示ブースでは支援物資や会社の紹介に対し、来場者から感謝の声をいただきました。一方で、当社および支援内容のアピールが不足しているのご指摘もいただきました。今後は、湖南市社会福祉協議会を窓口災害ボランティア団体との関係づくりを進め、地域貢献をさらに深めていきます。

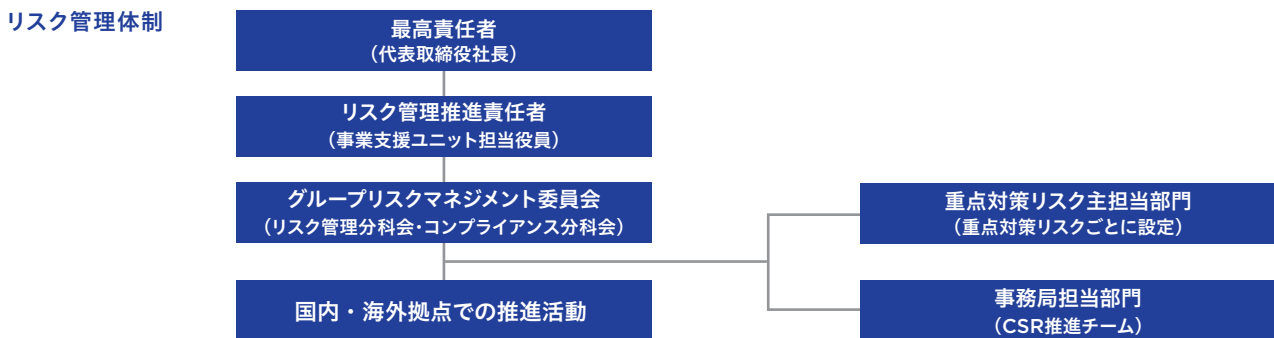


甲北防災フェスタ展示ブース

ガバナンス

リスクマネジメント

東洋アルミグループでは、代表取締役社長を最高責任者とする全組織的リスクマネジメント体制を構築し、リスク管理推進責任者が委員長を務めるグループリスクマネジメント委員会を運営しています。リスクマネジメントの効果的な推進のために、リスク管理分科会およびコンプライアンス分科会を設け、推進メンバーによる活動を行っています。リスク管理分科会においては、社内で抽出された法的リスクに関して、横展開として抽出部門以外での対応状況のチェックを行っています。リスクアセスメントを通じて選定した重点対策リスクカテゴリーに主担当部門を設置し、



コンプライアンス推進

東洋アルミグループでは、法令遵守のみならず社会規範や企業倫理を含めた広義のコンプライアンス推進を実施しています。法令遵守に関しては、「法的リスク」を重点対策リスクカテゴリーの一つと位置付け、リスクマネジメント活動の対象としています。コンプライアンス意識向上の取組については、年に2回実施するコンプライアンスミーティングを中心的な活動としています。2025年度はサプライチェーン上の人権リスクや、職場における心理的安全性をテーマとして、各部門における意見交換を実施しました。コンプライアンス違反が生じることを未然に防止する

とともに、生じてしまった際には早期に発見し、是正することが必要です。東洋アルミグループでは外部通報窓口を含む相談通報ラインを整備・周知しています。相談通報の実績は社内規程に基づき、監査役と経営層へ報告されます。2025年度には、ハラスメント相談と不正通報への対応に関して明確化するための社内規程の改訂を行いました。2026年度は、各事業所のハラスメント相談窓口担当者向けに、外部講師による相談受付講習の実施を予定しています。

担当役員コミットメント

今年度は、事業環境の変化が一層激しさを増す中で、私たちが持続的に成長していくために、リスクマネジメントを単なる防御的な仕組みではなく、経営の信頼性と透明性を支える基盤として位置付け、一層推進してまいります。リスクは事業の障害として捉えるだけでなく、組織の課題を可視化し、改善につなげる重要な経営情報であると認識しています。そのため、重点対策リスクへの対応状況や各部門の取組みをこれまで以上に丁寧に把握し、経営層だけでなく現場を含めた組織全体で共有することで、判断の質とスピードを向上させていきます。あわせて、リスクマネジメント委員会を実効性ある形でしっかり機能させ、部門横断での課題把握、優先順位付け、対応方針の明確化を進めることで、全社的なリスク管理の精度を高めてまいります。また、内部統制や監査機能との連携を深め、問題の早期発見と是正を徹底するとともに、リスク情報や対応方針を分かりやすく開示することで、社内外からの信頼を着実に積み上げてまいります。さらに、コンプライアンスの徹底、不正の未然防止、風通しのよい職場づくりを通じて、透明性の高い企業風土を醸成し、ステークホルダーの皆さまに安心していただける経営を実現してまいります。私は、経営と現場が一体となった実効性あるリスクマネジメントを通じて、企業価値の向上に全力で取り組んでまいります。

新田 敏彦

執行役員

コーポレート本部総務ユニット、事業支援ユニット、品質保証ユニット並びに原料チーム担当

コーポレートガバナンス強化に向けた取組み

東洋アルミグループでは、持続的な成長および企業価値の向上を実現するため、コーポレートガバナンスの強化を重要な経営課題の一つと位置付け、継続的な取組みを進めています。近年においては、サステナビリティ経営の推進を背景に、サステナビリティ委員会の設置をはじめ、「内部統制システム整備の基本方針」の改定や関連規程・ルールの見直しを行い、グループ全体としてのガバナンス体制の高度化を図ってきました。

これらの取り組みにより、コンプライアンスの徹底およびリスク管理体制の明確化・強化を進めるとともに、各組織における責任と権限の整理を通じて、より実効性の高い内部統制の構築に努めています。また、急速に変化する事業環境や多様化するリスクに対応するため、従来の枠組みにとらわれない柔軟かつ機動的なガバナンス体制の整備にも取り組んでいます。

内部監査部門においては、これまで主にJ-SOX評価対応を中心とした活動を実施してきましたが、近年はグループ全体のガバナンスおよび内部統制の実効性をより一層高めることを目的として、監査の対象範囲および内容の拡充を図っています。単なる適合性の確認にとどまらず、業務プロセスの改善やリスクの未然防止につながる付加価値の高い監査を志向し、経営に資する機能としての強化を進めています。

現在は、内部統制の適切性およびその運用状況の検証を通じた改善支援を主眼として、以下の具体的な取組みを実施しています。

① 部門監査(オペレーション監査)

各部門における業務プロセスや日常の運用状況について、業務の有効性・効率性、関連規程やルールの遵守状況、さらには内在するリスクへの対応状況といった多角的な観点から監査を実施しています。監査プロセスにおいては、単に問題点を指摘するだけでなく、その背景要因や構造的な課題を分析し、実効性のある改善提案を行うことで、業務品質の向上および内部統制の強化につなげています。

② テーマ監査

リスクマネジメント委員会での議論や、不正抑止ヒアリング等を通じて顕在化したリスクを踏まえ、その重要性や発生可能性に応じて優先順位を設定した上で、特定のテーマに焦点を当てた監査を実施しています。これにより、グループ全体として重点的に対応すべきリスクに対し、横断的かつ効率的な監査活動を推進しています。

③ 法的リスク対応

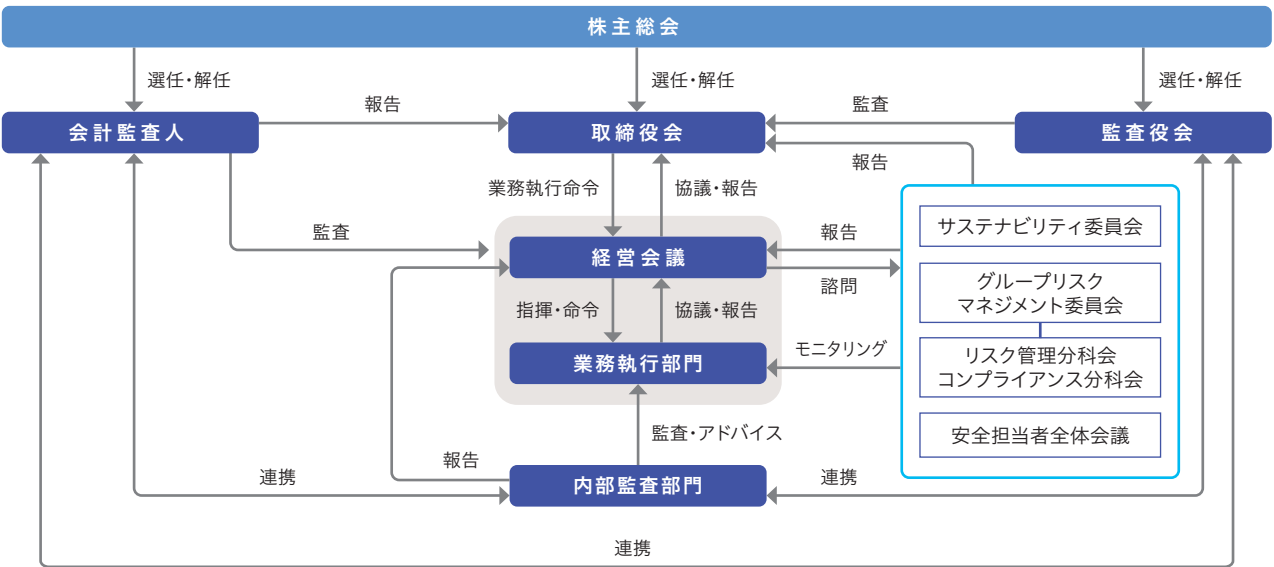
特定されたリスクのうち、法令遵守に関わる法的リスクについては、監査結果や各種ヒアリングを通じて得られた情報を踏まえ、必要に応じて関連部門と連携しながら、教育・研修・訓練の実施を行っています。これにより、従業員一人ひとりのコンプライアンス意識の向上を図るとともに、組織としての法令遵守体制の強化を推進しています。

④ 不正抑止ヒアリング

不正を許容しない企業風土の醸成を目的として、従業員を対象とした定期的なヒアリングを実施しています。本ヒアリングでは、不正リスクに関する情報収集に加え、職場における課題や不平・不満などの声を幅広く把握しています。こうした現場の声を踏まえ、不正リスクの早期発見および再発防止に向けた施策の検討・実施を行うとともに、働きやすい職場環境の整備にもつなげています。

これらの取り組みを通じて、東洋アルミグループは内部統制の実効性向上およびリスク管理体制の強化を図り、健全で透明性の高い企業経営の実現に努めています。今後も、事業環境の変化や新たなリスクの出現に適切に対応しながら、コーポレートガバナンスのさらなる高度化を継続的に推進していきます。

コーポレートガバナンス体制



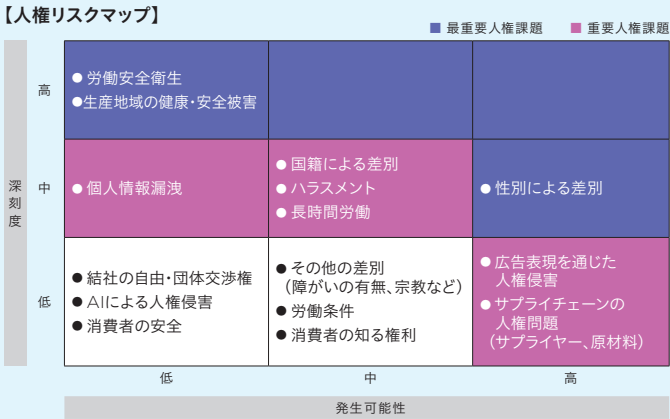
人権デュー・デリジェンス

人権尊重に関する取組み

当社は人権方針を定め、その考え方にに基づき、サプライチェーンを含む事業活動において人権デュー・デリジェンスを実施しています。
2025年度は、関係部門や取引先との連携を深めながら、人権リスクの把握と対応の実効性向上に取り組んでいます。
また、顧客要求への適切な対応や社内教育を通じて、人権尊重の考え方の浸透と管理体制の強化を進めました。

人権リスクへの対応

2024年度に特定した■最重要人権課題および■重要人権課題について、2025年度は対応状況の確認を行いました。
各課題について関係部門で確認を進めるとともに、取引先とのコミュニケーションや社内理解の促進を通じて、リスクの把握と改善に努めました。
また、関係部門間で必要な情報を共有し、課題の背景や影響範囲を整理しながら、優先度を意識した対応を進めました。
こうした取組みを通じて、単なる状況確認にとどまらず、実効性のある改善につなげることを目指しています。
詳細は当社ホームページに掲載予定です。



取引先とのコミュニケーション

主要取引先に対して、人権尊重に関する当社の考え方を共有するとともに、労働環境や管理体制などに関する確認を行いました。
必要に応じて個別のやり取りを行い、取引先の状況把握と相互理解の促進に努めています。
また、確認の過程では、形式的な回答の収集にとどまらず、実際の運用や課題認識についても丁寧に確認しました。
今後も、対話を通じて人権リスクの早期把握と改善支援を進めていきます。
継続的なコミュニケーションを通じて、サプライチェーン全体での人権尊重の定着を目指します。

顧客検査への対応

顧客による検査に対応し、人権・労働に関する要求事項への適合状況を確認しました。
改善が必要な事項については、関係部門と連携しながら改善に向けた対応を進めています。
こうした対応を通じて、外部要求への適合だけでなく、社内管理の向上にもつなげています。

社内理解の促進

役員および従業員を対象に、外部講師によるサステナビリティに関する講演を実施しました。
また、新入社員には人権課題に関するワークショップを実施し、人権尊重を含むサステナビリティ課題への社内理解の促進を図りました。
研修や対話の機会を通じて、従業員一人ひとりが人権を自分ごととして捉えることを促しています。



新入社員ワークショップ

今後も、関係部門および取引先と連携しながら、人権尊重の取組みを継続的に改善していきます。

サステナビリティへの想いと取組み

役員メッセージ



永田 俊哉
取締役常務執行役員
コーポレート本部統轄並びに
経営戦略ユニット、
IT マネジメントユニット担当

当社グループは、非財務課題を経営の重要テーマとして位置付け、持続的な企業価値の向上に取り組んでいます。
特に本年は「環境マネジメント」をテーマに掲げ、「みらいのためにできること」を一つひとつ着実に実践しながら、事業活動を通じた環境負荷の低減と社会への貢献を進めてまいります。メーカーとして製造プロセスの高度化によるエネルギー効率の向上や温室効果ガス排出の削減、リサイクル活用の拡大に取り組むとともに、顧客の製品価値向上に資するソリューションを提供しています。
また、事業活動を通じて社会課題の解決につなげる経営を目指し、サプライチェーン全体での責任あるものづくりを推進しています。2031年の創立100周年に向け、環境対応を競争力の源泉へと高め、持続可能な未来と企業価値の向上の両立を図ってまいります。
最後に従業員のみなさんへ。“みなさん一人ひとりの主体的な挑戦こそが、当社の力の源泉です。次の100年に向け、誇りと責任を持って、共に新たな価値を創り続けていきましょう。”

サステナビリティ推進ワーキンググループ活動紹介

私たちは、部門を横断する若手従業員を中心とした「サステナビリティ推進ワーキンググループ」を結成し、サステナビリティ活動の推進や本レポートの制作に取り組んでいます。
今期メンバーでのキックオフでは勉強会を実施し、サステナビリティを取り巻く社会の動向を学んだ上で、本レポートの制作を進めました。
本レポートでは、コンセプトの策定、マテリアリティに関する活動内容、表紙や紙面デザインなどについて、メンバーの意見を反映しています。
部門横断のメンバーが参画することで、多様な視点を取り入れながら、ステークホルダーの皆さまに向けた自社らしい情報開示の在り方を考えています。
また、制作過程そのものを通じて、メンバー一人ひとりがサステナビリティを自分ごととして捉え、日々の業務にも活かしていけるよう、理解を深める機会としています。
さらに、サステナビリティをテーマとしたワークショップを定期的開催し、メンバーの意識向上と理解促進を図っています。
メンバーからは「年齢や役職に関係なく、さまざまな立場の人が集まることで、多様な発想が得られる。」「普段はサステナビリティを強く意識することはあまりなかったのですが、メンバーの皆さんが持ち寄ってきた事案や取組みに刺激を受け、『自分ごと』の範囲が広がっているのを感じます。」「サステナビリティ推進ワーキンググループの活動を通じ、持続可能な社会の実現に向けた取組みが企業価値向上につながる重要な課題であると実感しています。今後は環境調和委員会でも活動の意義や成果を積極的に発信し、省エネルギーや資源循環、ボランティア活動への参加を広げながら、社員一人ひとりの意識向上と行動変容を促し、全社一体となって取組みを推進していきたいと思います。」といった声が寄せられています。
こうした活動を各自の所属部門で共有することで、サステナビリティへの理解や関心を社内に広げ、より主体的に取り組む風土づくりにつなげています。





東洋アルミニウム株式会社

<https://www.toyal.co.jp/>

大阪オフィス

〒541-0056 大阪府大阪市中央区久太郎町三丁目6番8号 JRE御堂筋ダイワビル
TEL 06-6271-3151 (代表)

東京オフィス

〒105-0004 東京都港区新橋一丁目1番13号 アーバンネット内幸町ビル
TEL 03-5501-0777 (代表)

UD FONT

だれにも読みやすい、ユニバーサル
デザインフォントを使用しています。